



答胤句集
冬

5
4401
4





まろく歌

うれいせは清子乃らと并そを
撫さく一葉のなあとし世を
十有せりしそらそ松葉みさ
みそらるす栲乃ちるせふに
あしうあとのこふ春乃松木

昭和九年
九月二日
購求

あ掃くゆきしうたるふま
松坂乃あしりき紀乃信欽
に志とらわけあ乃
あつとれを

日め氷いやうふさる入梅と
あつとる乃はあふあにてお時
あしれらと培みあのをる
あつとる乃はあふあにてお時

門へ 5
號 4401
卷 4

於る所の種もを伝へりおれ
おれれをささくさく皮ひつ
きよき介のころぬれくお時る
たふすおし指よ案おくさるれお
田舎言のめりやのさるおし
家の方に聖ふりやおれれ
おれおれささくささくお時る
お時るささくささくお時る

おれおれささくささくお時る
ささくささくささくお時る
ささくささくささくお時る
ささくささくささくお時る
ささくささくささくお時る
ささくささくささくお時る
ささくささくささくお時る
ささくささくささくお時る
ささくささくささくお時る
ささくささくささくお時る

糸備もねらちたをこころの感の
しるしははらばらしくはる水
は糸をえりきりかたかた
にたりのや無そのよあ

夕のせぬあらにむきかたを
あつてあつて

ひるねのしるしをかきかたし
あつてあつてあつてあつて

とよ比也

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

世系の面はうらふとさし
きふらと夕陽をみゆの中
あつた江尾舟にうけておくれ
あつたにこちのこは舟をも
みだおまじき
末の乃あゝさゆしとくれ
あつた

目くらにとももき舟のさ式を

りあつた乃水とらゝく時るの極
着ちうら梯を備へたる式を
あつたあつたのちもあつたあ
あつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあ

酒造のあつた

あつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあ

云々 尾ノ第一枝

とらふ

十丈の枝も木にたぐりて

葉の仲さほ

ひらけ枝場をたぐりて

葉の仲さほたぐりて

たぐりてたぐりて

たぐりてたぐりて

たぐりてたぐりて

たぐりてたぐりて

たぐりてたぐりて

たぐりてたぐりて

たぐりてたぐりて

たぐりてたぐりて

たぐりてたぐりて

たぐりてたぐりて

ありしころの大根ぬきし山姥とい
大根ゆき味乃るゆりてきゆ
とつ習らば

大根ゆきとこのころのきよの接ひたり
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
とまきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
とまきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

とまきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

獨裁~~~~~

寺~~~~~
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~


ひまわりあま〜あま〜は福を
松のこころをいかにいかにいかに
西に力をいかにいかにいかに
あま〜あま〜あま〜あま〜あま〜
あま〜あま〜あま〜あま〜あま〜
川とていかにいかにいかにいかに
あま〜あま〜あま〜あま〜あま〜

あま〜あま〜あま〜あま〜あま〜
あま〜あま〜あま〜あま〜あま〜
あま〜あま〜あま〜あま〜あま〜
あま〜あま〜あま〜あま〜あま〜
あま〜あま〜あま〜あま〜あま〜
あま〜あま〜あま〜あま〜あま〜
あま〜あま〜あま〜あま〜あま〜
あま〜あま〜あま〜あま〜あま〜

又のち乃てかかるる

あつたふたふたふたふたふたふた
夕つたのてふふふふふふふふ
おつたふたふたふたふたふた
あつたふたふたふたふたふた
すつたふたふたふたふたふた
あつたふたふたふたふたふた
ひつたふたふたふたふたふた

お川よひつたふたふたふた
あつたふたふたふたふたふた
あつたふたふたふたふたふた
あつたふたふたふたふたふた
あつたふたふたふたふたふた
あつたふたふたふたふたふた
あつたふたふたふたふたふた
あつたふたふたふたふたふた
あつたふたふたふたふたふた
あつたふたふたふたふたふた
あつたふたふたふたふたふた

下

清く来た

ゆめはくらくらとわらわらと
あふくらくらとわらわらと
あふくらくらとわらわらと
あふくらくらとわらわらと
あふくらくらとわらわらと
あふくらくらとわらわらと
あふくらくらとわらわらと
あふくらくらとわらわらと
あふくらくらとわらわらと
あふくらくらとわらわらと

羽代さゆれさゆれとわらわら
舞踏のあふくらくらとわらわら
あふくらくらとわらわらと
あふくらくらとわらわらと
あふくらくらとわらわらと
あふくらくらとわらわらと
あふくらくらとわらわらと
あふくらくらとわらわらと
あふくらくらとわらわらと
あふくらくらとわらわらと

むはのりたるなりとてあつておのち
ふはのりたるなりとてあつておのち
はあつて人のあつてのあつておのち
さつてあつてあつてあつてあつて
はあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつて

白子乃子あまに語り

はあつてあつてあつてあつてあつて

戸のあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

るゝとてなむいふもいふもいふも
白くちかきまはるちかきまはるちか
昔の井に水をいれりていふ
あゝいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふも

いふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふも

峰臨亭雪見

おしほをさすものわけし 庭乃松

越後おほきほし

垣松うらたるとまきふらぬれか

とまき比屋咄生

たさきのほしとそえふのほのさ福

とかし茂(一)みとまきとまきとまき

とまき乃かし茂とまきとまき

豊かほしけしとまきとまき

ふか乃まきとまきとまき

飯けとまきとまきとまき

あまらのあまらなとあまらな

とまきとまきとまきとまき

うらたるとまきとまきとまき

相のまきとまきとまきとまき

まきとまきとまきとまき

田の中は雑つゝありてそのゆゑに
跡もなきにひきつゝいふもいふれ
おろすておろすたる海女の橋が
ちよとゆゑはちのちよの日はたつ
おろすたる色もいふていふも
ゝおろすたるおろすたるおろす
おろすたるおろすたるおろすたる

海はちよとゆゑはちのちよの日はたつ

天保十五年秋 門人投三

天保十五年
辰三月發兌

書 肆

洛東成田氏藏版

東都

須原屋茂兵衛

山城屋佐兵衛

名古屋

美濃屋伊六

松屋善兵衛

皇都

伊勢屋文助

浪花

秋田屋市兵衛

4. 12. 18

